

患者さんの明日の診療に役立つ 臨床研究を

患者さんが適切な診療を受けられるように、老若男女を問わず全身の疾患や病態を的確に診断できる医師になりたいという思いから放射線科医になって30年以上が経過しました。画像検査は、レントゲン検査やX線CT検査等、構造や形から評価する形態画像と、主として臓器や組織の生理機能や代謝活動を捉える機能画像に分かれますが、研修医の頃から、形では評価できない代謝や動態を評価できる機能画像、および薬剤の動態を利用して病変を狙い撃ちする放射線内療法の魅力に惹かれて、核医学をサブスペシャリティとしてきました。

2人の子供が成人したプライベートでは、調理器具をフル活用して時短料理を豪華に見せる技を磨きながら、休日にお菓子を作ることがささやかな楽しみです。

当院では、PET薬剤の合成が可能な環境を活かして、PET検査と臨床研究を介して患者さんの診療にお役に立てるよう日々精進したいと考えています。

臨床研究センター 上席専門研究員

奥山 智緒



京都府立医科大学博士（医学）
日本医学放射線学会
診断専門医・放射線科研修指導者
日本核医学会専門医
日本核医学会認定PET認定医
2017年より当院に着任
京都府京都市出身

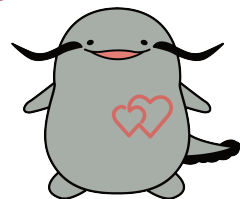
FACE



Information

滋賀県立総合病院Instagram・Facebookのご案内

病院の活動を発信しています。
ぜひフォローをお願いします！



イメージキャラクター「びわずん」



Instagram



Facebook

ご意見・ご感想募集

滋賀県立総合病院広報誌「FACE」へのご意見やご感想をぜひお寄せください。
お住まい、年齢、ご意見・ご感想を下記フォームよりお送りください。

滋賀県立総合病院の広報誌
「FACE」に関するアンケートフォーム



笑顔で患者に寄り添いチームで取り組む姿勢を基本とし
子どもから大人まで安心・信頼・満足の得られる高度かつ専門的な医療の実現



〒524-8524 滋賀県守山市守山5丁目4番30号
TEL : 077-582-5031 (代) / 0570-00-5031 (ナビダイヤル)
【診療受付時間】 午前8時30分～午前11時 ※2科受診の患者様を除く
【休診日】 土曜日・日曜日・祝祭日 / 年末年始 (12/29～1/3)
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/index.html>

滋賀県立総合病院



FACE

滋賀県立総合病院広報誌

発行：滋賀県立総合病院広報委員会（事務局総務課）
発行日：2025年9月

バックナンバーも
ご覧いただけます



【特集】 臨床研究センター

県立病院から、
明日の診療、
未来の医療につながる
高レベルの臨床研究を



医学研究とは、人々の健康と生活の質を高めるために病気の原因やしくみ、予防、診断、治療、予後の理解を深めることであり、患者さんを対象に行う臨床研究と分子レベルの検討や動物実験などを通じて行う基礎研究があります。一般病院では大学病院のような大規模な研究設備やスタッフが少ないため、主に臨床研究が中心となることが多いですが、当院では平成11年以来、動物実験や遺伝子研究などの基礎研究が可能な設備、PET薬剤の合成ができる設備を整え、基礎研究と臨床研究の融合を目指してきました。

臨床研究センターではゲノム疫学研究部門とPETイメージング部門で研究する専任の研究員の他、院内の多くのスタッフが兼務研究員として総合病院の診療と両立して研究することが可能な環境を整え、患者さんと医療の発展のために、国内外に評価される研究を行っています。

PETイメージング部門

PET検査とは「ポジトロン断層法 (Positron Emission Tomography)」の略で、小さな放射線を出す薬を体内に入れ、その薬が体の中でどう動くかを特殊なカメラで撮影して体の中の状態を詳しく調べる核医学検査のひとつです。悪性腫瘍の広がり評価に用いられるFDG-PETや、アルツハイマー病のアミロイド抗体治療薬の適応決定のために行うアミロイドPETなど患者さんの診療のために重要な検査を行うとともに、現在の保険診療では診断や評価の難しい疾患や病態に対する新規薬剤を用いた研究に取り組み、患者さんの診療に役立てています。

ゲノム疫学研究部門

多くの疾患の発症には多数の環境要因と遺伝要因が複雑に絡み合っています。ゲノム疫学研究部門では、これまで、特に精神神経疾患や難聴などの疾患の病因遺伝子

と病態の関連を追究してきました。さらに現在は、県民の健康改善や医療費適正化のために、遺伝子コホート情報や滋賀県の健康医療データを元に健康課題を分析する研究にも取り組んでいます。

このような研究により、ひとりひとりの体質に合わせた個別化医療・個別化予防、病気の発症リスクを予測する方法の構築を目指しています。



院内研究セミナーの様子

ペプチド受容体放射線内用療法 (ルタテラ治療)

放射線内用療法とは放射性物質を含む薬剤（放射性医薬品）を経口や注射で体内に投与し、がんなどを治療する方法で、核医学治療、RI治療などとも呼ばれています。放射性医薬品が病変に選択的に集まる性質を利用して体内から放射線を照射するため、時には、治療前には見つけられていない転移病変にも放射線照射を行うことができ、一般的な抗がん剤と比べると比較的副作用が軽いなどの特長があります。

ルタテラ治療は、希少癌である神経内分泌腫瘍 (NET) の細胞表面に存在する特徴的な受容体 (ソマトスタチン受容体) に結合する薬剤を用いた放射線内用療法で、従来の薬物方法が効きにくくなった患者さんにも効果を示します。欧州では2017年に、日本では2021年に承認されましたが、放射性医薬品の管理上、設備、スタッフ面等で条件の整った施設でしか行うことができません。

当院では、放射性医薬品の管理、取扱いに慣れ、核医学治療経験の豊富なスタッフのいるPETイメージング部門が中心となり、腫瘍内科や放射線治療科と連携して、本年6月からルタテラ治療を行えるようになりました。がん診療拠点病院としての大きな強みの一つとなるべく、医師、診療放射線技師、看護師、薬剤師および事務職員などが一丸となって取り組んでまいります。

